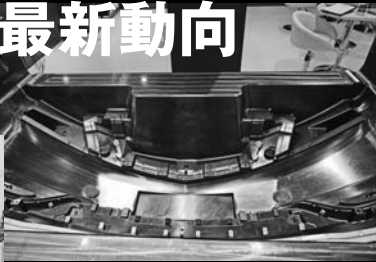


asiamold 2013 に見る 中国金型メーカーの最新動向

編集部



金型分野における国際展示会「アジアモールド 2013」が9月21日～23日までの3日間にわたって、中国広東省広州市にある展示会場、保利世貿博覽館(Poly World Trade Center Expo)で開催された。主催は広州広亜フランクフルト展覧。第7回目を数える今回は15カ国・地域から400社以上の企業が出展。開催期間中は昨年より11%増の約19,000人が来場した。

会場では、プラスチック/プレス金型のほか成形品、金型部品、CAD/CAM、成形機・装置、3次元プリンタなどが披露された。広州市や近辺の東莞市、深圳市、佛山市は自動車産業の企業が数多くあり、それらの企業の旺盛な需要を踏まえ、例年同様に自動車部品用金型の出展が目立った。一方では、医療機器など特殊な成形品を展示する中国ローカル企業も見られた。

日本企業と取引する中で 技術を蓄えてきた中国金型企業

広州市は1990年代後半から2000年代前半にかけて「広州本田」、「東風日産」、「広州豊田」が設立された。出展した現地の金型メーカーが「日本の自動車メーカーから金型の技術指導を受けたことがある」と言うように、日本の技術をはじめとする外資の技術をもとに発達を遂げてきた。昨年の反日デモ以降も日本企業を主要取引先としている現地の金型企業は多く、順調に業績を伸ばしている。また、こうした企業は日本企業から求められている品質向上、コスト削減に対応するため、生産の合理化や微細、複雑加工技術に関心を示している様子が見えがえた。

▶GUANGZHOU SEAL MOULD(広東省深圳市)

2009年創業のプラスチック金型製造、射出成形メーカー。従業員は120人。昨年の売上は800万人民币。取引分野は自動車向け80%、医療機器向け20%。自動車関連の取引先として広州本田、広州豊田、吉利、長城がある。特に自動車のピラー部品(写真1)

の射出成形を得意とする。

ZhijunLi マーケティングマネージャーは「600mmのピラーの金型は50日間で製造できる。これはほかの金型メーカーよりも10日間ほど早い」と自信を見せる。創業から毎年30%ずつ売上げを拡大してきた。「現在の設備投資金額は売上げの7%だが10%を投資して生産規模を拡大していきたい」と話す。

▶Kai Da Xing Plastic Injection & Mold (広東省深圳市)

1996年に創業し、深圳に工場をもつプラスチック射出成形用金型製造メーカー。金型設計、製造、成形まで手がける。工場面積は1,200m²。製造する金型は、自動車用ランプ(写真2)はじめ、自動車の座席、テレビのフロントカバーなど。従業員は200人。

日本企業とは小糸製作所、村上開明堂の自動車用ランプメーカーと取引している。

HuangjunYao 総経理は「2011年は小糸製作所の原価協力賞を受賞した。今後もサプライヤーとして顧客に貢献していきたい」と抱負を語る。

▶ZYUAN PRECICE (広東省深圳市)

2000年設立の金型、プラスチック射出成形メーカー。携帯電話の筐体(写真3)、レンズ、時計のフレーム、食品機械向けのギヤといった機構部品など400mm以内の製品の金型を得意とする。取引先のほとんどは海外企業。特に欧米向けが多い。ノキア、サムスン、モトローラなどと取引があり、携帯電話向けの部品などを得意とする。2004年頃からは商社経由で日本企業との取引を開始。エプソンのプリンタのトナー部品も手がける。同社のAndy Zhong氏は最近の顧客の要望の変化について、「ギヤの等級は4～3級程度だったが、2～3年前からは3級から1級の製品が求められるようになった」と話す。今後については「品質を高めるには時間がかかる。設備投資によって生産能力を拡大させ、仕事の幅を広げていきたい」と



写真1 フロントピラーの成形品



写真2 自動車用ランプの成形品



写真3 携帯電話や電子部品の成形品



写真4 フロントグリルの成形品



写真5 テレビ放送用電波受信機の部品



写真6 CTスキャン装置の成形品

品質の追求とともに規模の拡大を急ぐ。

▶ ZHEJIANG KAIHUA MOULDS (浙江省台州市)

2000年創業のプラスチック金型、射出成形メーカー。従業員は1,200人。ゴミ箱やトレイなどの日用雑貨製品から自動車のバンパー、グリル(写真4)、デジタルカメラの部品までを手がける。自動車メーカーを主な取引先とし、その内訳は長城、上海第一汽車など中国国内メーカー向けが55%、メキシコ、アメリカ、ドイツ、フランスなどの海外向けが45%。雑貨製品では日本企業との取引もある。今後は展示会に積極的に参加して、イタリア、ポルトガルなどの欧米企業との取引拡大を目指す。

工場は日用雑貨向け、自動車部品用金型向けに2カ所保有する。2015年には台州市内に新たな自動車部品用金型工場を稼働させる計画がある。

▶ JIEYANG DIAMOND ELECTRONICS (広東省揭陽市)

ダイカスト、プラスチック金型のメーカー。従業員はグループ全体で1,000人。金型設計、製造、めっき処理、製品の組立てを一貫して行うことに強みをもつ。今回はテレビ放送用電波受信機(写真5)、船舶用無線機の部品を展示し、来場者の関心を集めていた。取引先企業はパナソニック、日立など日系企業を含めた海外メーカーとの取引が95%を占める。その中で日本が50%、米国向けが25%、欧米向けが25%。

▶ HONGSONG PLASTIC INDUSTRIAL (広東省東莞市)

2003年設立のプラスチック、ダイカスト金型メー

カー。主力はバンパー、ランプ、ラジエーター、内装部品など自動車部品向けプラスチック射出成形用金型の製造。ホンダ、トヨタ、日産など日系自動車メーカーのほか、VOLVO、BMW、フォードと取引がある。また、東芝などの電機メーカーとも取引があり、人体用CTスキャン装置のパネル(写真6)といった、自動車部品以外の金型も手がける。寸法公差については「 $5\mu\text{m}$ にも対応する」(同社の製品説明担当者)と自信を見せる。金型の生産設備として、森精機やソディックなどの日本製の工作機械を多数保有する。金型の生産能力は80~3,500tの金型を毎月40型製造する。

同社の営業担当者は「毎年10%ずつ売上げは伸びている。今年も続くだろう」と言う。手堅くビジネスを展開している様子だ。

▶ FO SHAN QI XIN MOULD (広東省佛山市)

取引先は海外が55%、国内が45%。海外取引先の内訳は日本が30%、そのほかはドイツ、韓国、インドネシア、パキスタンと幅広い国々と取引を行う。自動車のダイカスト部品の金型製造、成形を手がける。シリンダーブロック(写真7)、オイルパンなどの複雑形状の金型製造を得意とする。また0.4mmの板厚の製品を製造した実績もある。2003年の設立時は従業員30人、工場面積は500 m^2 だったが、現在は従業員200人、工場面積は6,000 m^2 まで急速に拡大させた。同社のChen Liang Jin 総経理は「世界各国に取引先を増やし、10年以内に中国国内で一番大きなダイカスト金型メーカーになりたい」と大きな目標を掲げる。